

# ホクリクサンショウオ 有尾目サンショウオ科

*Hynobius takedai* Matsui et Miyazaki

石川県カテゴリ 絶滅危惧 I 類

国カテゴリ 絶滅危惧 I B類

## 選定理由

生息地が人間の生活する場と重なり合っているため、環境の影響を受けやすく都市化や開発のほか、過疎と高齢化による稲作の中止が産卵場の消滅に拍車をかけており、絶滅する危険性が高い。

## 形態

成体の全長80～120mm。オスはメスよりやや大きく、メスに比べて尾長が長く、後肢が太い。繁殖期のオスは尾がひれ状に伸長し、総排出口の周辺部が膨大する。

## 国内分布

能登半島と富山県西部。

## 県内分布

かほく市以北の5市5町に生息。

## 生態

成体はふつう地中に潜み、繁殖期(一般に2～3月上旬)に産卵場に現れる。卵嚢は透明なひも状で、らせん形に巻く。1卵嚢中の卵数は30～70(平均45)。孵化してから約3年で性成熟する。

## 生息地の条件

産卵場(標高5～330m)は丘陵や山麓部にある二次林縁の小さな池、二次林縁に接した水田の溝、林道の側溝など湧水の溜まった日当たりのよい場所で、ごく緩やかな水流がある。

## 生存の危機

多くの産卵場で観察される卵嚢数は10対未満であり、このような小さな繁殖集団では最小存続可能個体数(Minimum Viable Population)を満たしていないと思われる。(A, B)

## 特記事項

羽咋市指定天然記念物。保全のために卵や成体を移植する場合、距離の離れた場所へ安易に導入することは避けなければならない。また一度だけの移植では定着率はきわめて低いのがふつうであり、その後のモニタリングが必要である。

## 参考文献

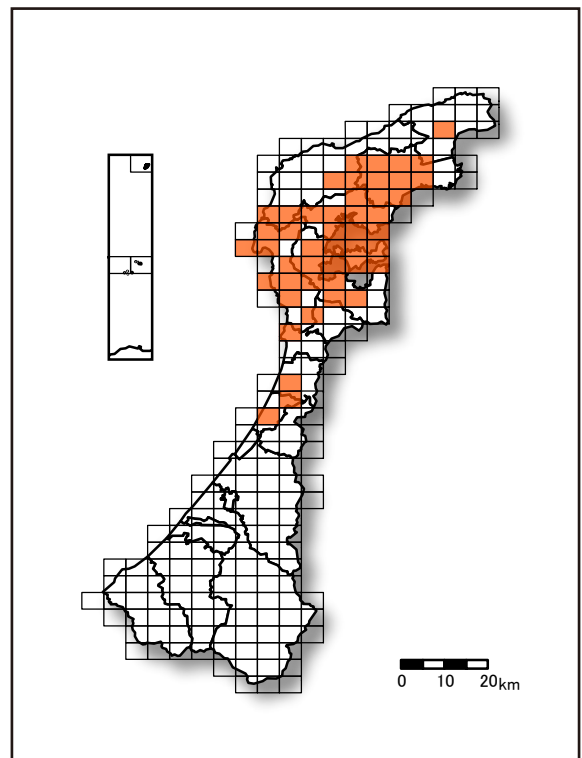
松井正文 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(爬虫類・両生類). p. 74-75. 自然環境研究センター.

Matsui, M. and K. Miyazaki 1984. Zool. Sci. 1:665-671.

宮崎光二・竹田俊雄 2000. 両生類誌(4): 18-22.



写真提供者: 宮崎光二



県内の分布